様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３４４１８
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５２８４０１４

研究課題名（和文）仏典における認識機序記述の研究―最初期から大乗期に至る記述の構造的把握を通して

研究課題名（英文）Studies on descriptions of the cognitive mechanism in the Buddhist texts, with a structural comprehension of the texts from earliest times to Mahayana period.

研究代表者
中谷　英明（Nakatani, Hideaki）

関西外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：２０１４０３９５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　10,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、最古の仏教テクスト（『スッタニパータ』の第４章）に発見された認識機序記述（「闘諍篇」862-874）を基に、最初期から大乗期に至る諸仏典における認識機序記述の解明を行った。「闘諍篇」において、ito-nidana-の意味を発見し、rupa、nibbana、sanna等の意味を明確にした。また、「闘諍篇」の認識機序記述とヤージュニャヴァルキヤのアートマン、ブラフマンとの関係や、五蘊、十二支縁起との関係を明らかにした。その他、想（サンニャー）の概念に関し、『倶舎論』、『三昧王経』、『大般涅槃経』、『牟尼意趣荘厳』、ボン教、ジャイナ古聖典の新解釈の可能性を指摘した。

研究成果の概要（英文）：In this project, we have analysed the description of cognitive process found in the Kalahavivada-sutta of the Suttanipata (Sn 862-874) and identified the precise meaning of ito-nidana, rupa, nibbana, sanna, etc., in this oldest part of the Pali canon. We have also pointed out the correspondence of descriptive framework between the description of Kalahavivada and that of atman-brahman of Yajnavalkya on one hand, and that of Panca-kkhandha on the other hand. Based on this clarification, we have investigated the meaning of sanna in such texts as Abhidharmakosha, Samadhirajasutra, Mahaparinirvanasutra, Munimatalamkara, Ayaranga etc., and have proposed new interpretations.

研究分野：インド仏教学

キーワード：認識機序　dhamma　潜在意識　nibbana　papanca　rupa　十二支縁起　五蘊

１．研究開始当初の背景

Suttanipāta の Aṭṭhaka、Pārāyana 両章の古さはつとに指摘されてきたが、それが言語（音韻、語形、語彙）・韻律においても確認されることを、研究代表者中谷は発見した。すなわちパーリ聖典本体は、上記両章をＩ層（前４世紀）、Dhammapada, Sagātha-vagga（Saṃyutta-nikāya）等の古層韻文をII 層（前３世紀）、その他の大部分（多くは散文）を III 層（前２世紀）とする３層から成ることを発見した【中谷 2003「ブッダの魂論」『論集・古典の世界像』pp.32-50.】。

２．研究の目的

上記古層（I 層）中の Kalahavivāda-sutta（=KvS）は、従来「縁起説の原型」【中村元『印仏研』５】とされてきたが、後代解釈を離れ本文に即して読むならば、実は精密な認識記述であることが判明する。本研究は、この KvS の新解釈をさらに深めるとともに、それを基盤として後代仏典における認識記述の見直しを行うことを目的とした。

３．研究の方法

KvS は、争いという行為が saññā といかに相関するかを主、副の二種の意識系列を立てて記述している（ここで nidāna は「原因」ではなく「相関」であることに注意【L. Renou, “Connection” en védique, “cause” en bouddhique】参照）。主系列は表層の諸意識、副系列はそれらを背後から制御する潜在諸意識である。両系列の出発点に置かれる saññā は、五蘊の一としての有漏の「想念」ではなく（五蘊概念は Ｉ 層では未成立）、覚者の認識も含む「認識作用」一般である。自我意識 mamatta を生む潜在的欲求である潜熟力 papañca がこの saññā を支配している。saññā がその支配から脱した時に感覚 rūpa は消える、すなわち世界が一変する。

以上のブッダの認識論をさらに綿密に読解するとともに、そこから出発したものとして、後代教理、とりわけ認識論を諸種の経論について再検討する、という方法をとる。

４．研究成果

第一に、主として KvS の精読により、潜熟力 papañca,認識作用 saññā, 消尽 nibbāna,「（後述の）それと連関するもの」itonidāna-, 意識 dhamma 等の重要概念の明確化に成功した。Av 中では主系列の諸意識は総称して「意識」dhamma と呼ばれ、Yājñavalkya の我・梵 ātman・brahman がそれぞれブッダの saññā・dhamma に相当することが判明した。ブッダが我・梵の唯一性・不変性を否認して両語を使用したことが判明し、ブッダの思想が Yājñavalkya の思想の大枠（無欲望による至福世界の獲得）を継承しつつも重要概念を修正していることが判明した。

第二に、上記のブッダの認識機序記述に基づき、後代仏教、ジャイナ教、ボン教等における「想」、「五蘊」等の概念の再検討し、新解釈の可能性を提出した。

例えば II 層の五蘊は、KvS の saññā を viññāna、phassa と sātā-asāta を vedanā、chanda と piya と行為を saññā、副系列のすべてを sankhāra と置き換えたとも見なし得る。五蘊は認識機序記述という視点から再検討する余地がある。また KvS は de La Vallée-Poussin (Théorie des douze causes) 以来、十二支縁起の原型とされて来たが、十二支縁起説の起源も同じ視点から再検討し得よう。

さらに、十二処十八界説から、次第に存在論的色彩を濃くして五位七十五法の教説に至り、再び認識論的傾向を強めて「自性」を「自相」へと言い換えた世親を経由して、直接知覚の対象や、世俗知と悟り知の区別の議論等の多様な認識論を展開する瑜伽行唯識派の認識論・論理学に至るまで、出発点にあったブッダの認識機序構造が、いかに継承され、変容していったかを明確にすることがより正確な理解を促すことが判明した。

また、大乗経典における悟り実現の契機としての saṃjñā も、悟りの契機とみなされることが判明した。

『倶舎論』、『三昧王経』、『大般涅槃経』、『牟尼意趣荘厳』、ボン教、ジャイナ古聖典の新解釈の可能性を指摘した。詳細は研究参画者の発表論文を参照されたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 22 件）

1.‘Buddha-nature and Emptiness: rNgog Blo-ldan-shes-rab and a Transmission of the Ratnagotravibhāga from India to Tibet’, Kazuo KANO, Vienna: WSTB 査読無 (2016).

2.Bonpo Abhidharma Theory of Five Aggregates, Seiji KUMAGAI, Journal of Indian and Buddhist Studies, Vol. 64-3, pp. 150-157, 査読有, 2016

3.『十地経』(Daśabhūmikasūtra) の「唯心」（cittamātra）と「大悲」(mahākaruṇā)、室寺義仁,『密教文化』第 236 号、2016 年 3 月、pp.(25)-(42)〔英文レジュメ p.(8)〕査読有

4.「阿闍世王経抄本の梵文写本」、加納和雄,『印度学仏教学研究』64-1、2016、170–176. 査読有

5. Exegesis of the Ratnagotravibhāga in Kashmir, Kazuo KANO, 高野山大学大学院紀要 15、2016. 1–23. 査読有

6. Ratnākaraśānti’s Understanding of Buddha-nature, Kazuo KANO, China Tibetology 25, 2015. 52–77, 査読無

7. “Along the Middle Path, in Quest for Wisdom: The Great Madhyamaka in Rimé Discourses.” DEROCHE, Marc-Henri. In

The Other Emptiness: Perspectives on the Zhentong Buddhist Discourse in India and Tibet, Klaus-Diether Mathes and Michael Sheehy (eds). New York: State University of New York Press, 査読無 2016.
8. Inspired Advice on Contemplation: Jamgön Kongtrul's Guidance to the View of the Great Perfection." In *Buddhist Luminaries: Inspired Advice by Nineteenth-Century Ecumenical Masters in Eastern Tibet*, Holly Galley and Joshua Schapiro. DEROCHE, Marc-Henri. Boston: Wisdom Publications, 査読無 2015
9.『三昧王経』第 32 章における saṃjñā の位置について、宮崎泉、『印度学佛教学研究』、査読有、63-2 巻、(166)–(173)頁、2015 年
10. 「梵文校訂『牟尼意趣荘厳』第一章(fol. 48r4-58v1)—『中観五蘊論』にもとづく一切法の解説—、加納和雄、『密教文化』234、7–43 頁（李学竹との共著)。査読有、2015 年
11. "The rDzogs chen Doctrine of the Three Gnoses (ye shes gsum): An Analysis of Klong chen pa's Exegesis and His Sources", DEROCHE, Marc-Henri, YASUDA, Akinori. Revue d'Etudes Tibétaines, no. 33, pp. 187-230, 査読無 October 2015. 2014
12. 「洞窟八詩篇訳注 －八頌品（はちじゅぼん）の研究 －」、中谷英明、『奥田聖応先生頌寿記念
論集』、pp. 534-550、査読無、2014 年
13. Sanskrit Verses from Candrakīrti's Triśaraṇasaptati Cited in the Munimatālaṃkāra. Kazuo Kano China Tibetology 22, pp. 4–11, 査読無、2014. (Collaboration with LI Xuezhu).
14. Restoration of Sanskrit text in missing leaves (fols. 2, 6, 7) of the Abhidharma-samuccaya manuscript on the basis of the Abhidharmasamuccayavyākhyā manuscript. Kazuo Kano, China Tibetology 23, pp. 53–63, 査読無、2014.（李学竹との共著）
15. Six Tibetan Translation of the Ratnagotravibhāga. Kazuo Kano, China Tibetology 23, pp.76–101, 査読無、2014.
16. Current Issues and Progress in Tibetan Studies: Proceedings of the Third International Seminar of Young Tibetologists, Kobe 2012 (Journal of Research Institute, vol. 51), Tsuguhito Takeuchi, Kazushi Iwao, Ai Nishida, Seiji Kumagai and Meishi Yamamoto, Kobe: Kobe City University of Foreign Studies, 査読無 2014.
17 History and Current Situation of the Sa skya pa school in Bhutan, Seiji Kumagai, Bhutanese Buddhism and Its Culture、査読有, Kathmandu: Vajra Publications, pp. 127-139, 2014. 22.
18.「初期ジャイナ教聖典における認識過程」、山畑倫志、『印度学仏教学研究』、日本印度学仏教学会、第 63 巻第 1 号、pp.308-313、査読有、2014.
19. The Momenta behind Changes in Religious Currents in Ancient and Medieval India, Hideaki NAKATANI, Transactions of the International Conference of Eastern Studies, No.LVIII, Tokyo, pp.127-131, 査読無、2013.
20. 「三法印（dharmamudrā trilakṣaṇā）—古典インドにおける三句の発端と展開の諸様相—」、室寺義仁、『東方學報』第 88 冊、〔93〕-〔112〕頁（英文要旨 1 頁)、査読無、2013 年
21. Caractéristiques de la théorie des deux vérités en Inde et au Tibet, Seiji Kumagai, Circulaire de la Société Franco-Japonaise des Etudes Orientales（査読有）, Vol. 34-36, pp. 15-20, 2013.
22. 「ボン教における仏教二諦思想の受容とその展開」, 熊谷誠慈,『東方学報』, Vol. 88, pp. 321-342, 査読無、2013 年 12 月。
23. "History of the Forgotten Mother Monastery of the Ancients' School: The dPal ri Monastery in the Valley of the 'Tibetan Emperors.'"DEROCHE, Marc-Henri, India, Gangtok: *Bulletin of Tibetology*, 49-1, pp. 77-112, 査読無、2013.

〔学会発表〕（計 7 件）
1. 中谷英明「仏教興起のモメンタム（The Momentum behind the Rise of Buddhism)」第 58 回国際東方学者会議、2013 年 5 月 24 日、東京
2. 中谷英明「八頌品訳注」日本印度学仏教学会第 65 回学術大会 武蔵大学 2014 年 8 月 31 日
3. Hideaki NAKATANI, "Buddha's Denial of Human Universality", "Bouddhisme et universalisme", Colloque international organisé par le Centre Hakubi de recherche avancée (Université de Kyōto), le Collège de France et l'École française d'Extrême-Orient,京都大学人文科学研究所、2014 年 10 月 4 日
4. Izumi MIYAZAKI, On Buddhist Sainthood: Enlightement and the Cessation ot Ideation (samjñā). Colloque international organisé par le Centre Hakubi de recherche avancée (Université de Kyōto), le Collège de France et l'École française d'Extrême-Orient,京都大学人文科学研究所、2014 年 10 月 4 日
5. Seiji KUMAGAI, Historical development of the Demonstration of the 'Absence of Self-nature.' Colloque international organisé par le Centre Hakubi de recherche avancée (Université de Kyōto), le Collège de France et l'École française d'Extrême-Orient,京都大学人文科学研究所、2014 年 10 月 4 日

6.中谷英明「実践知を基盤とする人文学の展望」東洋学・アジア研究連絡協議会主催シンポジウム「東洋学・アジア研究の新たな振興」、東京大学法文 2 号館　2014 年 12 月 13 日
7. Hideaki NAKATANI, « Le Pali, langue de la réalisation de l'enseignement du Buddha », Symposium Hiéroglossie I, Collège de France, Paris, le 17 juin 2015.

〔図書〕（計 1 件）
『ブッダの認識論、あるいはこころの可能性について — 「闘諍篇」中核部（862-874）訳注』、中谷英明、著書、「伝統思想シリーズ」龍谷大学現代インド研究センター、2014.

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ
「仏典における認識機序記述の研究」
http://www.classics.jp/ninshiki/index.html

６．研究組織

(1)研究代表者
中谷　英明(NAKATANI,Hideaki)
関西外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：20140395

(2)研究分担者
榎本　文雄（ENOMOTO,Fumio）
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：70151991

室寺　義仁（MUROJI,Yoshihito）
滋賀医科大学・医学部・教授
研究者番号：00190942

宮崎　泉（MIYAZAKI,Izumi）
京都大学・文学研究科・准教授
研究者番号：40314166

加納　和雄（KANOU,Kazuo）
高野山大学・文学部・准教授
研究者番号：00509523

志賀　淨邦（SHIGA,Kiyokuni）
京都産業大学・文化学部・准教授
研究者番号：60440872

熊谷　誠慈（KUMAGAI,Seiji）
京都大学・心の未来研究センター・准教授
研究者番号：80614114

デロッシュ　マルク・ヘンリ(DEROCHE, Marc-Henri)
京都大学・総合生存館・准教授
研究者番号：90712076

山畑　倫志（YAMAHATA,Tomoyuki）
北海道科学大学・高等教育支援センター・講師
研究者番号：00528234

(3)連携研究者
(　　)

(4)研究協力者
(　　)